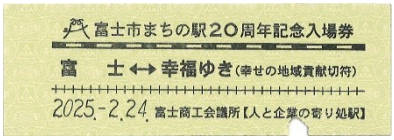
全国まちの駅連絡協議会　事務局　令和６年度第３号　令和７年３月発行

# まちの駅ニュース

人と人の出会いと交流をサポートする
まちの情報発信基地

## 1. 富士市まちの駅20周年記念式典が開催されました




2004 年に４駅でスタートした富士市まちの駅が 20 周年を迎え、２月 24 日、富士商工会議所（まちの駅“人と企業の寄り処”）で記念式典が開催されました。

式典は午後３時にスタートし、開会挨拶の中で、富士市まちの駅ネットワークの白垣善行代表が「コロナ禍のダメージを乗り越えて、さらなる交流と情報発信の強化を図りたい」という意志を示されました。次に、富士市の小長井義正市長が祝辞の中で、「2013 年に富士山が世界遺産に登録されたことで、国内外からの登山客・観光客が増加しており、気軽に立ち寄れる場所として「まちの駅」の需要がますます高まってくることが考えられます。特色のある「まちの駅」のおもてなし活動に期待しています」と述べられました。続いて、小池智明 富士市議会議長の挨拶。小池議長は富士市のまちの駅立ち上げメンバーのおひとりであり、福岡の甘木・朝倉まちの駅の視察や４駅でまちの駅社会実験を実施したことなどが紹介されました。

その後、小池雅記事務局長が「富士市まちの駅 20 年のあゆみ」を報告しました。2004 年に４駅でスタートし、翌年には 22 駅に増えてまちの駅めぐりのウィーキングイベントを実施。その後の主な活動も紹介されましたが、特筆すべきは、2010 年に宮崎県で口蹄疫が流行した際に富士市まちの駅ネットワークで義援金を募って、宮崎県の高鍋まちの駅ネットワークに送金したことですね。

記念講演は、日本人形文化研究所所長で富士市まちの駅“和みの輪処”の林直輝駅長が「毘沙門さんのだるま市」をテーマに行いました。まちの駅の最重要活動として取り組まれている「富士だるまプロジェクト」に関連した内容でしたので、少しばかり紹介させていただきます。

富士市の妙法寺「毘沙門天大祭」は、毎年 50 万人もの人々で賑わう大祭ですが、このお祭りには全国からだるま屋さんが集合し、日本最大規模の「だるま市」としても知られています。また大祭には 500 軒もの露店が２km に渡って並びます。その賑わい振りは「東海一の高市（たかまち）」と呼ばれています。

だるまのルーツは中国・明の時代に、丸みをつけた底を重くすることで倒そうとしても起き上がる人形「不倒翁」にあります。それが 1500 年頃日本に伝わり、「起き上がり小法師」が作られるようになりました。一方、仏教の禅宗では、白隠禅師などにより達磨大師をモデルにした多数の「禅画」が描かれました。江戸時代中期になると、起き上がり小法師と禅画が合わさって今のような「だるまさん」が誕生し、縁起物として人気を博しました。赤は魔よけの色で、天然痘に罹らないようにというお守りにされたためです。当初は黒眼入りだるまでしたが、江戸時代の後期になると、願と眼とで縁起を担いで、大願成就に黒目を入れるようになりました。

「富士だるまプロジェクト」は、2007 年の「開運！オリジナルだるまコンテスト」がスタートです。地元「鈴川だるま」の白だるまに色や絵柄を自由に付けてもらい、できあがったオリジナルだるま作品を応募してもらうイベントです。色とりどりのだるまさん達は、受賞作品に限らず、すべての応募作品が一堂にお披露目され、人々の目を楽しませてくれます。また、募集期間中、岳南鉄道では「だるま電車」運行して、だるまコンテストを応援します。さらに、小学生が作った折り紙のだるまも車内に展示され、乗客をお出迎えしてくれるのです。

まちの駅の合言葉の一つに、「足を引っ張るのではなく、手を取り合おう」ということがありますが、富士市では、手も足もない「だるまさん」が多くの人々をつなげているのでした。

富士市まちの駅では、記念式典にあわせて「20 年のあゆみ」という記念誌を発行しました。その中で、５人の歴代代表が理想的な“まちの駅の在り方”を語っていますので、いくつかを抜すいします。

- 自分が楽しめることが基本であり、その上で地域や趣味を活かす
- まちの駅を拠点に、地域の人々と交流し、関係性を深める
- 「待ち」の姿勢で、おもてなしの心でお客様を迎える
- 各駅を巡るウォーキングイベントの開催も面白い
- 個々の人材のアイデアと能力を最大限に活かす

30 周年に向けて、富士市まちの駅のますますのご活躍をご祈念いたします。

## 2.「第26回まちの駅全国大会 in はつかいち」が開催されました

「第 26 回まちの駅全国大会 in はつかいち」は 2 月 14 日～15 日の日程で開催され、約 120 人が参加しました。歓迎の「烏神太鼓」演奏で始まり、式典では、議会中の松本太郎市長からビデオメッセージが放映されました。観光とまちづくりトークセッションでは、「まちを元気づけるには･･･」をテーマに、3 人のパネラーが実践事例を報告し、意見交換が行われました。分科会は、「ＡＩの活用術」「観光地におけるまちの駅の役割」「まちの駅のメリットを考える」「まちの駅ネットワークと官民一体のまちづくり」の４つの部会に分かれて具体の議論。情報交換会には松本市長も参加、Ken G さんの「けん玉パフォーマンス」とドレッシングさんの「ありがとう・ありがとう」の歌唱などで大いに盛り上がりました。2 日目のエクスカーションは「廿日市市の魅力ある産業を体験するコース」と「ベテラン観光ガイドによる世界遺産宮島を満喫するコース」が用意され、いずれも好評でした。

### ① まちの駅アコースティックライブ

2 月 13 日、“まちの駅全国大会 in はつかいち前夜祭特別企画”として、まちの駅 ADOA 大野のフードコートを会場に、「まちの駅アコースティックライブ」が開催されました。福岡県大川市のまちの駅、「クラフトマンの世界が広がるおしゃれな家具の駅」の山浦ひろし駅長による「サイモン＆ガーファンクル弾き語り」です。

聴衆はまちの駅関係者のほか、地元の方々が多数集まり、さらには外国人観光客もいる中で、「サウンド・オブ・サイレンス」、「ミセス・ロビンソン」、「明日に架ける橋」などのヒット曲を、ギターを弾きながら歌いあげました。生演奏を聴きながら、同席した人同士で、買ってきた食べ物を分け合っての楽しい交流。アンコール演奏が実に 5 回も続き、演者も聴衆も主催者も大満喫の前夜祭となったようです。

### ② 今年もまちの駅全国大会に参加しました

宮原 政志（まちの駅ネットワーク東金）

千葉県東金市に「まちの駅」が作られたのは 2011 年、いまから 14 年も前の事です。当時僕が会長を務めていた地元商工会議所青年部が、50 周年記念で行なった幾つかの取り組みのうちのひとつとして、「地域のつながりにヨコ串を刺す」と言って、市内に一気にたくさんの「まちの駅」を作り、ひとつの協議会を立ち上げたのが始まりです。

「まちの駅ネットワーク東金」は商工会議所、市役所、文化会館、アリーナ、社会福祉協議会、道の駅はじめ、市内の商店や郵便局などの会員からなり、属性・立場の違う団体や事業主が、官民、営利非営利の垣根を超えて同じ目線で円卓会議をする形式を守っています。「まちの駅」は全国に約 1300 存在し、行政をあげて取り組んでいる地域や、観光協会が主体となって取り組んでいる地域などその形態はさまざまです。「まちの駅ネットワーク東金」では、これまでに埼玉県本庄市、栃木県鹿沼市、那須町（黒田原）、静岡県富士市、新潟市見附市、福島県会津若松市などさまざまな「まちの駅ネットワーク」を訪問・交流し、積極的に全国の進んだ地域を見てきました。

そんな中でも全国大会などは、非常にモチベーションの高い地域の事例や、やる気あふれる「まちの駅」の方々の取り組みを学べる場です。今回の開催地である広島県廿日市市には、商工会館とまちの駅が一体となった、道の駅のような複合施設「まちの駅 ADOA 大野」が完成しています。市の予算で建てて、商工会が運営しているのだそうです。バスに乗って施設を訪れて見学、商工会青年部の方々が焼き牡蠣を振る舞っておもてなししてくれました。

僕が参加した分科会は「AI の活用術」というテーマで、各地から集まった方々と意見交換しました。懇親会では同席した県商工会連合会の役員さんにお酒を勧められ盛り上がり、また市の部長さんからは「まちの駅 ADOA 大野」が誕生した時の苦労話などを聞かせて貰いました。そして、翌日は宮島、広島平和記念公園と定番の観光をして帰ってきました。

重要文化財 宮島豊国神社千畳閣

いつも視察旅行等で出掛けてもだいたい PC を持ち歩き、合間に仕事をしていたりするのですが、今回は敢えて PC は持ち歩かず、店も休みにして完全に仕事から離れて過ごしました。おかげで、少しだけ仕事が溜まってしまいましたが、気分的にはかなりリセットできたし、見るもの聞くことともても学びの多い会で、自分の普段の職場や活動にたくさんの示唆、アイデアを貰いました。

## 3. まちの駅ネットワークたけはらで“まちの駅巡り”

広島県竹原市は古くから瀬戸内の交通の要衝として発展してきたまちで、「安芸の小京都」と呼ばれています。1982 年に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された町並み保存地区は、竹原市は NHK 連続テレビ小説「マッサン」のモデルにもなったニッカウヰスキーの創業者竹鶴政孝氏のふるさとでもあります。

ホテル大広苑（町並みに近いホテル駅）に宿泊して、夕食時には大公苑の原田周平社長、さんぱつの駅（藤川理容室）の藤川裕員駅長らと懇談しました。

翌日は、市内のまちの駅めぐりを海蔵寺の浅田薫さんにガイドしていただきました。立ち寄ったまちの駅を紹介します。素敵な駅長さんとの出会いでした。

たけはら町並み保存地区

### ① まちの車の駅（㈱榮谷モータース）

創業昭和 30 年の「Honda Cars 竹原」ですが、自動車のトラブルは全メーカー対応、お困りごとは何でも相談くださいとのこと。町並み保存地区に程近いところにあり、気軽に立ち寄れる「まちの駅」として、まちの案内もしています。「お客でない人にもどんどん寄って欲しい」という榮谷嘉博代表（駅長）の考えから、幼児用遊具やソファー、雑誌、飲み物まで常備され、お休み処としても充実した楽しい空間になっています。

### ② 自転車の駅（サイクルショップ T-BOX）

サイクリング中の修理・調整・用品の補充はもちろん、トイレや待合い兼休憩スペースもあるので、休憩がてら立ち寄れる、サイクリストに安心の「まちの駅」。店長の好永泰崇さんは口数の少ない職人肌の若き駅長ですが、自転車のことでしたら、何でもご相談くださいとのこと。「まちの車の駅」のご近所にあります。

### ③ せとうちクルーザー＆グランピング CoCoChi の駅

クルーザーと 1 日 1 組（2～4 名）限定のグランピングサイトです。瀬戸内海・芸予諸島の多島美はもちろん、日の出、日の入り、夜は満天の星空を独り占め気分も味わえます。定員 10 名のプライベートチャータークルーズのほか、キャンプや BBQ、夏場は海水浴も可能です。西田勝則駅長は元公務員だった方ですが、現在、露天風呂を自力（手掘り？）で整備中とのこと。完成が楽しみですね。

### ④ 人生の交差点駅（海蔵寺）

海蔵寺からの眺望

うさぎ島（大久野島）の全景が見える

瀬戸内海が一望できる丘の小さな禅寺。写経や作務業などの禅寺体験ができます。庭には日航機事故に因縁のある庭石が供養のために奉納されています。副住職の浅田幽雪さんは、元々は技術者として企業でバリバリ働いていたものの、人生を見つめ直す中で禅宗の仏門に入られたとのこと。**己事究明**こそが人生、「生を明らめ死を明らむるは仏家一大事の因縁なり」という言葉を頂戴しました。

## 4. 防府市まちの駅うめてらすを訪問

まちの駅うめてらすは、防府天満宮の表参道に位置する観光交流・観光回遊を目的とした拠点施設です。周辺にも観光名所が多く、防府天満宮参拝客を中心に、まちの駅としての休憩＆広域観光案内のほか、「赤ちゃんの駅」としての授乳、おむつの交換もできるスペースを備えています。防府ブランド『幸せます』商品をはじめとする特産品・お土産の販売、カフェ･レストラン「スイートホーム」、イベント展示、レンタサイクルの貸出しなど、いろいろな利用を提供しています。スタッフから、防府市の地理と歴史について解説していただきました。

近隣に国指定名勝の「毛利氏庭園」や「山頭火ふるさと館」があります。明治 15 年に防府市で生まれた種田山頭火は、自由律俳句の代表的俳人で、“自由律俳句”という五・七・五にこだわらない自由なリズムの俳句を作りました。「山頭火ふるさと館」では、自由律俳句大会を開催しています。館内には、子供たちが作った自由律俳句も展示されていました。

## 5. まちの駅周防大島グリーンステイながうらを訪問

グリーンステイながうらは周防大島の姉妹島であるハワイ州カウアイ島をモチーフとした宿泊滞在施設です。ログハウス棟やセンターハウスといった宿泊施設をはじめ、ハワイ料理を提供する「グリーンガーデンレストラン」、疲れを癒す「潮風呂保養館」などが、“瀬戸内のハワイ”を演出しています。受付や売店のあるビジターセンターが「まちの駅」となり、周防大島観光の拠点としての役目を担っています。人工芝のグラウンドや全天候型運動場「レインボーアリーナ」などの運動施設が完備されており、姉妹施設である長浦スポーツ海浜スクエアを併用したスポーツ合宿施設としても人気があります。入田之世支配人によれば、お風呂とレストランは町内の方が多く利用し、町外からはスポーツ合宿の利用が多いとのこと。

明治の「官約移民」時代、周防大島町全体で 3,913 人をハワイへ送り出し、日本全国からの送出総数 29,000 人の約 13.5%にものぼります。周防大島町にある「日本ハワイ移民資料館」には、移民の歴史から現在のハワイとの交流までを知ることができる貴重な資料がたくさん揃っています。一見の価値大いにあり、です。

## 6. まちの駅ネットワーク本庄の阿奈正子さんの掲載記事

まちの駅ネットワーク本庄の阿奈正子さんから、本庄市の広報紙３月号『HONJO No.230』が届きました。阿奈さんの取材記事が掲載されていますので、共有させていただきます。　※広報ほんじょうは HP でも見られます。

Touch《タッチ》
―人から人へ紡ぐ、あなたの物語

このまちで暮らす、皆さんの物語をリレー方式で紹介していきます。

紹介してくれたのは…　長濱　茂雄さん（NPO 法人代表）

### Story.10 『つながり』でまちを盛り上げる

**阿奈 正子さん ／ NPO 法人相談役**

NPO 法人「まちの駅ネットワーク本庄」相談役。本庄市を市内外にアピールするため、さまざまな活動を行う。

結婚を機に本庄市に引っ越し、会社を経営しながら地域おこしに関わりました。その時に知り合った方から全国にある「まちの駅」の存在を聞きました。まちに来た人と交流し、おもてなしをする「まちの駅」の考えに共感し、本庄でも広めようと立ち上げたのが、「NPO 法人まちの駅ネットワーク本庄」です。市内のお店や公共施設が「まちの駅」として協力し、訪れた人をもてなす取組が評価され、地域づくり総務大臣表彰を受賞したこともあります。

活動の中で一番大切にしているのが、『つながり』。人のつながりがまちのつながりに、そして、まちのつながりが増えると、まち全体の盛り上がりになります。一つひとつのまちの駅ができる事は、小さな取組かもしれませんが、本庄に来た人とまちの駅が、そして駅同士が…とつながりを広げることで、本庄を盛り上げていきたいですね。

そして、広がったつながりを生かして、本庄で何かを始めたい、盛り上げたいと考える若い世代をサポートしていく。これが私のミッションです。

**POINT** まちと人がつながる「まちの駅」

まちの案内や一息つける休憩スペースを提供するまちの駅。阿奈さんも事務所を「プラス思考の駅」と称し、スペースを提供しています。

**編集後記**　時折、まちの駅のメリットは何かと問われます。まちの駅は収益事業ではないので、人やまちに対する“思い”や“情熱”、“こだわり”といったものがないと、おそらく続かないでしょう。今回いくつかのまちの駅を訪ねても、やはり目先の利益ではない価値観、自分の夢、地域への誇りなどを持っている方ばかり。己事究明なる言葉が心に沁みます。（は）

全国まちの駅連絡協議会事務局（地域交流センター）東京都千代田区東神田 1-7-10 KI ビル 3F　TEL03-5823-4190